

ISSN 0289-3827

京都女子大学

食物学会誌

第 61 号

JOURNAL OF FOOD SCIENCE

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

(Kyoto Joshi Daigaku Shokumotsu Gakkaishi)

No. 61

京都女子大学食物学会

FOOD SCIENCE SEMINAR
KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

December 2006

食 物 学 会 誌

第 6 1 号

目 次

研 究 報 文

- 緑茶中のビタミン B₁₂ 濃度に与えるアスコルビン酸の影響
.....橘高 (桂) 博美..... 1
- マウス胸腺の抗体遺伝子転写細胞の分化
.....安達綾希子, 井上 摩耶, 大野 理絵, 城 清佳,
長尾美沙子, 宮田 堅司..... 7
- 小麦アレルギーのエピトープペプチドに対するモノクローナル抗体の作製
.....山口 (村上) 友貴絵, 中村 美幸, 池田 美紀,
廣瀬 潤子, 成田 宏史.....13
- 幼児の食育推進に関する一考察—幼稚園と保育所の給食の観点から—
.....足立 恵子, 中山 玲子.....21
- ストレス環境下における細菌の増殖と形態変化
.....横山 佳子, 松田 葵.....29
- 国産小麦粉を使用したパンの特性および外国産小麦粉ブレンドによる
製パン性の改善
.....吉野世美子.....37

京都女子大学食物学会誌投稿規定

(平成17年5月1日改訂・実施)

1. 原稿は食物栄養学科および生活科学科食物栄養専攻に関係のある研究論文、調査、総説、自由論叢、研究室だより、学級、卒業生だより、実習記および見学記などとする。原稿には前記区分を明記の上、投稿カードを添付する。
投稿者は本会会員ならびに食物栄養学科および生活科学科食物栄養専攻卒業生とする。
2. 原稿の取捨は、学会長、専攻主任、運営委員長によって構成される編集会議に一任とする。採択された論文の著作権は、学会に委譲するものとし、さらに学会は電子化の権利も有するものとする。
3. 研究論文は他誌に未発表のものとする。
4. 原稿は報文の場合、刷上がり6頁(400字詰原稿用紙で27枚程度)以内とする。ワープロ使用の時は、A4判用紙に印字する。
原稿用紙4.5枚が約1頁に相当し、凸版図または写真版図共に6×9cm挿入の場合はこのスペースは約500字に相当する。
5. 原稿の書き方は下記の通りとする。
 - (1) 論文の表題の下に著者名を書き、つづいて英文表題とローマ字著者名を記載する。
 - (2) 原稿第1枚の脚注に著者の勤務先あるいは所属機関の公称名および所在地とその英訳名を書く。
 - (3) 研究論文およびノートには英文抄録(250語以内)を付ける。英文抄録は別のA4判用紙に、平易な英文で簡潔・明確に書く。全文をつづけてダブルスペースで印字する。
 - (4) 文章は平かな、当用漢字を用い、現代かなづかいにより、化学用語は文部省学術用語による。外国語音訳にはかたかなを用いる。
 - (5) 本文の区分はポイントシステムにより、大見出し、中見出し、および小見出しを明確にする。なお、小見出し以下の区分はアルファベットによる。
〔例〕 I. 実験
1. 実験方法
1) 試料の調製
A. 試料
 - (6) 句読点およびカッコには1こまを与える。ハイフンは1こまの中に明瞭に書く。新しい行の初めは1こまあげる。
 - (7) 一般に通用している物質名、術語などに対しては外国語を用いないこととする。
 - (8) 原則として本文中に元素名、かんたんな化合物名称の代りにその化学記号、化学式を用いない。
 - (9) 数字はすべてアラビア数字を用い、数量は原則としてC.G.S.単位を用いる。数量および術語の略字などは次の例による。
m(メートル), cm(センチメートル), m²(平方メートル), m³(立方メートル), ml(ミリリットル), l(リットル), mg(ミリグラム), g(グラム), kg(キログラム), °C(摂氏度), % (パーセント), pH(水素イオン濃度), b. p.(沸点), f. p.(凝固点), m. p.(融点), cal(カロリー), kcal(キロカロリー), hr.(時間), min(分), sec(秒), MW(分子量), V(ボルト), kV(キロボルト), A(アンペア), mA(ミリアンペア), W(ワット), hPa(気圧), N(規定度), M(モル濃度)
 - (10) 表、図および写真の番号は表1, 表2, …… , 図1, 図2, …… , 写真1, 写真2, …… , のように表わし、表の説明は表の上を書く。図および写真の説明は、別の用紙にまとめて書く。
 - (11) 図はそのまま縮尺印刷できる様に鮮明に作成する。
 - (12) 図、表および写真は本文中に挿入箇所を明示して、別に添付する。
 - (13) 本文および文献中の雑誌名には____, 雑誌巻数には_____の下線をつける。____はイタリック体, _____はゴシック体となる。
 - (14) 本文中の引用文献番号は両カッコをつけて本文と同じ大きさで書く。文献は本文の最後に通し番号順に列記する。
 - (15) 引用文献は著者名、雑誌名(書名)、巻数、頁数、年号の順に書き、(13)の注意の如く、それぞれ下線をつける。
〔例〕 A. Haas, B. Hill: *Biochem. J.*, 29, 986 (1932)
 - (16) 引用文献の略し方は原則として日本化学総覧およびChemical Abstractsの規定による。ただし、食物学会誌を引用するときは“本誌”と略す。
 - (17) 脚注は***で示し、各ページごとに記載する。
6. ワープロを使用した原稿にはフロッピーディスクを添付する。
7. 校正は著者が行うことを原則とする。
8. 総説、研究論文、自由論叢については希望者に対し別刷20部を贈呈する。それ以上の希望数に対しては実費を申しあげる。希望者は希望数を投稿カードに記入する。

京都女子大学 食物学会誌 第61号 (非売品)

平成18年12月2日 印刷

平成18年12月10日 発行

編集委員代表

編集者 田 中 清

発行所 京都女子大学食物学会
京都市東山区今熊野北日吉町
京都女子大学家政学部内
電話 (531) 7145 (〒605-8501)

印刷所 中西印刷株式会社
京都市上京区下立売通小川東入ル
電話 (441) 3155~8
